

〔例題 14〕次の（1）から（4）の問いに答えよ。

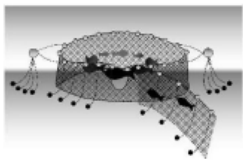
（1）漁業の種類に関して説明した次の文章と図について、空欄「ア」から「エ」に当てはまる語句の組合せとして正しいものを次の①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

図Ⅰのように、魚の通り道をふさぐように垣根状の網（垣網）を設置し、魚が逃げられない構造となった身網みあみと呼ばれるところまで魚を誘導し、漁獲する漁法を「ア」という。

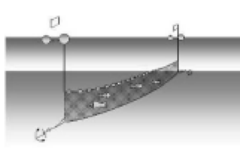
図Ⅱのように、魚の通り道に網を張り、魚を網目に絡ませて漁獲する漁法を「イ」という。

図Ⅲのように、表層に設置した幹縄みきなわに針と餌が付いた枝縄えだなわを等間隔で吊り下げ、マグロやメカジキ、サメなどを釣り上げる漁法を「ウ」という。

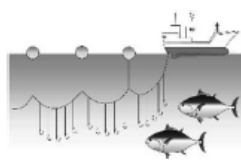
図Ⅳのように、袋状の網を海底に投網し、網口を開きながら網をひき、海の底にいる魚介類を獲る漁法を「エ」という。



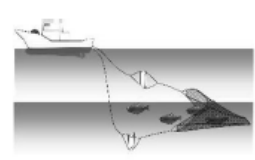
図Ⅰ



図Ⅱ



図Ⅲ



図Ⅳ

	ア	イ	ウ	エ
①	定置網漁業	刺し網漁業	はえ縄漁業	底びき網漁業
②	定置網漁業	棒受網漁業	はえ縄漁業	すくい網漁業
③	刺し網漁業	定置網漁業	はえ縄漁業	底びき網漁業
④	まき網漁業	刺し網漁業	一本釣り漁業	底びき網漁業
⑤	まき網漁業	棒受網漁業	一本釣り漁業	すくい網漁業

（2）漁業計測機器に関して説明した次の文章について、空欄「」に共通して当てはまる語句を答えよ。

漁業を効率的に行うためには、水の中の様子を知ることが重要である。は、超音波ちょうおんぱとその反射波を利用するという点で魚群探知機と同じ原理であり、超音波を使って船の周囲の魚群を立体的に探し、方向・距離を探知する機器である。魚群探知機は送受波器を船底に付けて、船の下の魚群を見つけるのに使われるのに対し、は超音波ビームを船の前方に向けて水平面で旋回させたり、超音波を全周に同時に発射したりすることで、魚群の方向・距離を探知する。

(3) 日本の漁業制度に関して説明した次の文章について、空欄[]に共通して当てはまる語句を答えよ。

沿岸性の定着性の高い資源を対象とした採貝・採藻等の漁業、一定の海面を占有して営まれる定置網漁業や養殖業等は、行政庁によって免許された内容（漁業種類、漁場の位置及び区域、漁業時期等）の範囲内で行われる。このように、免許された内容の範囲内で水産動植物の採捕や養殖を行うことができる権利を、[]という。

[]には、共同[]、定置[]及び区画[]の3種類があり、定置[]及び区画[]は漁業協同組合やその他の法人等に免許されるが、地先の水面を共同して漁業を営む共同[]は漁業協同組合にのみ免許される。

(4) 沿岸漁家である宮城県むすび丸の2025（令和7）年1月1日における資産と負債の額は次のとおりである。宮城県むすび丸の同日における資本の額を計算して答えよ。

なお、解答には単位も記載すること。

現金	: ¥17,000,000	船舶	: ¥30,000,000
買掛金（燃料代）	: ¥ 2,000,000	借入金	: ¥25,000,000
売掛金（水揚代金）	: ¥20,000,000		